ちいき人権WORLD

発　行
2022年度　　夏号（No.107）

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長　土田　紀康
連絡先　TEL　072-924-9853
FAX　072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会

ウクライナと接するポーランド・メディカ国境検問所に
避難民が到着するようす（ハンガーゼロより提供）

わたしたちはあらゆる戦争に反対します。
ひゅーペンの缶バッジを作りました！
無料でお配りしています。
気になる方は八尾市人権協会事務局
（072-924-9853）までお問い合わせください。

もくじ

2 P ..... 世人やお総会記念講演会
ウクライナ支援の現場から
6 P ..... 加盟団体総会紹介
8 P ..... 世人やお 2022 年度活動紹介
9 P ..... 八尾市立図書館と
八尾市立男女共同参画センターコラボ企画
10 P..... 2022 年度じんけん楽習塾の報告
11 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権 41
12 P ..... 新共有する時間は…part51
13 P ..... うーさんのおすすめ本
/世界人権宣言パネル展のお知らせ
14 P 気ままにおしゃべりシネマ50
15 P ..... 勝手にきゃらふる 72
16 P ..... 歌詞紹介 / まちがいさがし㉒

世人やお総会記念講演会

ウクライナ支援の現場から ハンガーゼロ

清家弘久さん、ジェロム・カセバさん

7月24日（金）2022年度世人やお総会を開催しました。総会終了後の記念講演会は、ウクライナ支援にかかわるハンガーゼロの清家弘久さんと、ジェロム・カセバさんの講演でした。ジェロム・カセバさんはポーランドの支援現場から戻られた直後で、現地支援のお話をしてくれました。その内容を事務局編集責任にてご紹介します。

未来永劫起こらないという保障はない

（清家弘久）2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻がはじまり4か月が経ちました。支援の方法も刻一刻と変化してきています。いずれにしてもこれがいつまで続くのか。ウクライナから避難している人たちは、先の見えない辛い悩みを抱えていると思います。また、日本に逃れてくる人たちもいます。その支援をどうしていくのかという課題もあります。

ウクライナ避難民支援の話の前に2013年につくられた映像を紹介します。（ある女の子が誕生日を家族から祝ってもらっている楽しいシーンから、徐々に戦争に巻き込まれ逃れる映像が映し出されるショートムービー）

この映像の最後に、「これは現実でないかもしれない。しかし今後未来永劫起こらないという保障は何もない。」とありましたが、この9年前に作られたショートムービーで語られていたことが現実のこととしてウクライナで起こってしまいました。

ウクライナから避難できる人は主に子どもと女性です。男性は、10代と60歳以上、それと子どもを3人以上いる人に限られています。その上で近隣国に国境を越えて逃れる避難民は、ポーランドが一番多く、200万人以上になって

清家弘久さん

います。ちなみに国連は、UNOCHA（国連人道問題調整事務所）が今回ウクライナのような戦争災害において、人道支援、緊急物資等の調整を取り扱います。一方、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が難民の保護・支援の役割を担っています。

ウクライナ難民の違い

（ジェロム・カセバ）私たちの支援はポーランド側から入り現場で支援しきました。その現場から戻ってきたばかりです。

３月21日から４月１２日までポーランドに入りました。ウクライナとポーランドの国境線にあるメディカルセンターで支援しました。

私自身はコンゴ共和国から日本へきて働いていますが、コンゴにも難民がいます。しかしその難民とウクライナ難民には違いがありました。通常、家族とともに逃げてくるのですが、家族と離れて逃れてくる人が多くいました。ウクライナ政府から男性は残されることになっているため女性と子どもたちが逃れてきています。

安心できる場所を提供するために

（ジェロム・カセバ）国境を越えてくるとテスコという町で登録をし、ポーランドに入国します。そこから難民の人たちが休まる町まで移動します。国境から15分ほどバスで移動したところにシェルターがあります。その上で、難民の人たちは、ポーランドに留まるか、EUに入国したのでイギリス、フランス等どこへ逃れたいかインタビューを受けます。ポーランド入国時にはパスポートが必要でしたが、ポーランドもEUの一つのため、同じEU圏内としてイギリス、フランス等へはパスポートなしで入国することができます。

厳しい戦禍の中を逃れてきた人たちは残された家族のことを思い泣いている人たちも多く、見ていてとても悲しい気持ちになりました。

デブリンはワルシャワよりさらにウクライナから離れた町です。ウクライナに隣接する国境付近よりもできる限りウクライナから遠ざかる場所で安心に暮らすことを求めて移動する人もいます。国境付近のシェルターは無料で提供されますが、移動しホテルなどで滞在すると費用がかかります。そこで私たちハンガーゼロと韓国の飢餓対策機構が合同でアパートを借り上げ、避難者を受入ました。ポーランド政府が国境の町で

っています。コロナ感染もひどい時でしたから使用した食器等丁寧に洗浄しながら提供していました。避難の現場でもコロナは世界の感染状況同様にありました。しかし、マスクも消毒液も不足する中で、ワクチンを２回接種して現場にいきましたが、私自身も感染しました。そのために日本への帰国が遅れました。それは難民の中に感染者がいたことが想像されますが、戦禍の中でコロナ感染よりも優先すべき支援を先行するしかなく、知らずに感染してしまったのではないかと思っています。

Global Empowerment Mission（ＧＥＭ）という団体は大きな倉庫を確保しています。その倉庫にいろんな団体が物資を提供し一時保管されたものを支援先に輸送しています。

GEM はウクライナの支援のため、ウクライナからも物資を購入、備蓄し、それをウクライナ国内の支援先に輸送するということもしています。日本からも災害備蓄用のパンや中共薬品から薬の提供などを受けています。

難民の世話をし、私たちのような民間団体が協力しながら、国境から離れた難民の支援をしています。

はじめの頃はものすごく混乱がありました。その中でどうすべきか周辺の受入国も難民の人たちもどうすれば分かりません。それをアメリカやイギリス、日本も含め NGO 団体が一定の交通整理をし、支援の方向性を導いていくわけです。

食料・物資の提供支援

（ジェロム・カセバ）アメリカの団体 World Kitchen International には、各国の NGO 団体職員が配置され、難民の人たちに食事の提供を行

日本での受け入れ支援

（清家弘久）もう一つの支援は、日本での受入支援です。避難地に窓口となるジャパンデスクを設置しています。日本では主に横浜のキリスト教会が受け入れてくれていますが、八尾にも来られることになっています。日本大使館も協力的で、おおよそ１週間ぐらいで入国手続きできるようにしています。ただ、少し問題と感じるのは、日本での受入にあたり、身元保証人がいる場合とそうでない場合があります。

身元保証人がいない場合は日本政府管轄になります。逆に、例えば私たちのように教会が身元保証人となって受け入れる場合は、その教会がある地元自治体が素早く介入しやすくなりま

す。身元保証人がなければ日本政府管轄になり、政府の受け入れ方法によってしまうために例えば八尾市や横浜市が介入しにくくなってしまいます。そのため日本政府が、受け入れ自治体を指定したのちに、その自治体が介入することができるようになります。

身元保証人がいる場合は、日本財団が支援をしています。日本までの航空費用と、生活するために月 10 万円を半年から 1 年間支援しています。すでに 1300 人ぐらいが支援を受けています。

ジェロム・カセバさん

今後の支援

（清家弘久）これまで、避難先での難民へのお世話と物資の提供、日本の受け入れと三つの支援について説明しました。今後の支援の一つとしてウクライナの孤児院支援があります。ウクライナにも沢山の孤児院があります。その孤児院の子どもたちが安心して暮らすことができるよう戦禍から逃れたいという要望があります。孤児院でお世話をしている人を含めての移動を申請し、いろいろ尽くしたのですが認められませんでした。それはウクライナ側、ポーランド側双方とも認められませんでした。子どもの闇取引の問題等もあるのでかなり慎重になったことが一つの要因でもあります。国外移動が出来ない代わりに、ウクライナ国内での安全なエリアに孤児院の子どもたちを移動させようと支援しています。

また、ウクライナスポーツ選手の支援もあります。ワルシャワで女性卓球選手から、安心して練習する場所が欲しいと要望がありそれも支援しています。加えて、今後も日本への避難を希望する人たちに対して、各国が開設する避難支援デスクに日本デスクも設置し、現在 1 日 3 ～ 4 人の難民に対応しています。

できるところまで支援を続ける

（清家弘久）最後に、現地スタッフのレポートを紹介します。「オデーサの駅で日本への渡航希望

者と会いました。姉 21 歳弟 15 歳の姉弟でお母さんは泣きながら送り出しました。この二人を車にのせてポーランドのワルシャワに戻りました。15 歳の弟に日本で何がしたいか尋ねると、「生きたい。死にたくない」と言いました。ディズニーランドとか静かなところといったコメントを想像していた私は、ショックで車を運転しながら泣いてしまいました。」

いまテレビ各局によればウクライナのニュースを取り上げるとバラエティの番組ができないからと、あまり取り上げなくなっているようです。しかしこの 15 歳の少年のシンプルに「生きたい」という思いに、闘いは今も続いているんだということを感じざるを得ません。私たちはこれからも長い支援になると思いますが活動ができるところまで続けていきます。また日本に逃れてきた人との交流なども考えていければと思っています。

これからもこの戦争の動向に注視し、ご支援をよろしくお願いします。

世人やお加盟団体総会紹介

八尾市人権教育研究会総会

八尾市人権教育研究会（八人研）は、５月24日（火）に総会を開催しました。今年度は感染拡大防止のため、時間を短縮、規模を縮小しましたが、こども園、小・中・義務教育学校からの参加を得て、事務局より今年度の活動について参加者のみなさんと共有しました。次に実践報告では、桂中学校より、「クラスミーティング　～おれからいくわ！～」と題して、集団づくりをテーマご報告いただきました。

自分の気持ちをコントロールすることがにがてで、自分の思い通りにいかないと、「うっとうしいねん」と乱暴な言動で表すＡが、自分の思いを仲間に伝えることができるように、そして、互いに自分の思いを知ってほしいと思えるような「ほんまもんの仲間」をめざしたとりくみが報告されました。担任と子どもが、ともに多くの時間を過ごし、さまざまな課題を乗り越えた中で、Ａがクラスミーティングの実行委員になり、打ち合わせで「おれからいくわ。みんなが安心して話しやすい雰囲気つくる」と言った言葉に、積み重ねられたＡの成長と集団づくりの成果である「絆」を感じ取ることができました。

また桂中学校創立50周年記念としてとりくみ、発信された「桂中ピクトグラム」では、自校に「誇り」をもち、活き活きと活動する子どもたちの姿が印象的でした。

八尾市在日外国人教育研究会総会・記念講演

第31回八尾市在日外国人教育研究会総会が、５月31日(火)、高美小学校体育館で107名の参加を得て開催されました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時間を短縮、規模を縮小しました。昨年度の事業報告・会計決算報告、そして、今年度の活動課題案・事業計画案並びに予算案・新組織体制の議事については５月２０日に各校に送付し、書面を介して、承認されました。

記念講演では、桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授のオチャンテ 村井 ロサメルセデスさんより、「外国につながりのある子どもたちの現状とキャリア支援」と題して、ご講演いただきました。

まず、日本の多文化社会の現状や、新たに来日する子どもたちの現状などについての話があり、日本語指導や支援の体制が充実しつつあるが、学齢超過の若者や渡日２世代の若者の高等学校進学後の支援などの課題がまだ残されていると話されました。そして、学力が足りないことや文化のちがいによる集団の中で感じる疎外感、教育制度が十分に理解できないことなどは、将来への展望を持てず中途退学をしてしまう原因になるという話もありました。外国につながりのある子どもたちをエンパワーするためには、子どもたちの文化的背景、保護者の置かれている状況などを知り、関心を持ち、継続的な日本語習得の支援が必要であることを強く感じました。

NPO 法人 KARALIN
2022 年度はパワフルに進んでいきたいです！

法律で定められている総会はいつも面白味のない形だけのものになってしまいがち。決算しながら報告を作り、報告書や会報を作りながら、新年度を回していく。記念講演などは「日を改めて・・・。」となりがちなのである。しかし、今年はエンジンがかかっていて、「いろいろはじめるぞ！」っという総会になりました。

選定のあった広場事業が、2021 年の 7 月のオープンを迎える忙しい年となりました。新型コロナへの向き合い方も重なり、設立からの法人のあり方や、一つ一つの事業を見直すきっかけにもなりました。見えなかった潜在的な様々な問題に気づき、反省し、運営の危機管理も大事だと思う 1 年でした。

2022 年度の中心的なつどいの広場事業（子育て広場からりん）は、運営が次の世代に移る準備をしながら、新しい広場のカタチも出来上がってきました。昨年度は、引っ越しが確定しない中で申請できなかった子どもの居場所事業に、今年度は申請し通りました。10 代の子どもの居場所を「遊び」中心に運営していく方針でスタートしています。すでに、駄菓子やカードゲーム、ボードゲームで盛り上がってきています！幼児生活クラス「どみそランド」では、新しい場所で少人数で子どもの力を最大限に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。子ども参加プロジェクトでは、居場所と連動しながら、イベント企画への子どもの参加をすすめ、11 月 20 日の「世界こどもの日」には、子どもたちと一緒に面白いことをしたいなと目論んでいます。

また、コロナ禍の続く中、学校に行きにくい子どもが増えている現状を感じ、不登校や発達のあれこれを話せる場を作ろうと、親の会をスタートしました。集まった人でいろんな情報を交換したり、安心して気持ちを出せる場にしていきたいと思います。

ぜひ、今後の KARALIN の活動にご注目ください。詳細は HP から！

ＮＰＯ法人トッカビ総会

2022 年度定時総会を 6 月 3 日（金）に開催しました。コロナの感染者数がやや下がっていた時期でもあり対面開催となりました。事業報告、計画ならびに収支決算、予算の提案のあと、グループに分かれ、質疑応答ならびに取り組みへの意見を出し合っていただきました。改めてトッカビの会員状況にふれ、増やすためにどうすれば良いのか。そのためには、情報発信のツールとして SNS の活用も充実していく必要があるのではないかといった意見が出ました。

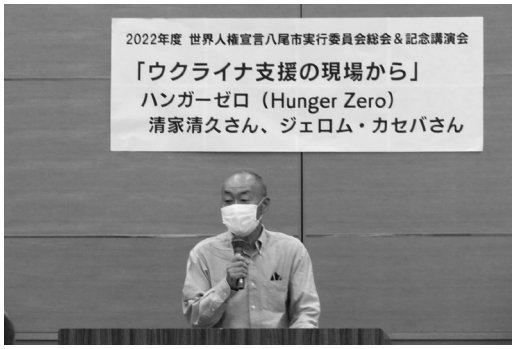
トッカビは2024年に発足50年をむかえます。今回、総会記念講演として実施することはできませんでしたが、7 月 1 日（金）に『「飯の食える民族教育」を追い求めて～トッカビ子ども会の教育実践をふりかえる～』を開催しました。2 名の元トッカビスタッフが、発足当初から 1990 年代にかけての活動やスタッフとしての思いを語っていただきました。子どもたちへの日常的な活動が、在日にむけられる不条理な制度や仕組みに対し、反差別の取り組みにつながってきたということを改めて認識させられた学習会でした。

世人やお 2022 年度活動紹介

2022 年度総会にて昨年度の活動と会計決算、活動方針と予算が承認されました。新型コロナ感染状況によっては、内容変更等もあるかもしれませんが 2022 年度もよろしくお願いします。

戦争は最大の人権侵害といわれます。1945 年 10 月 24 日に発効された国連憲章には、「われら連合国の人民は、われらの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う」ことが決意されました。しかしその決意も虚しく、2 月 24 日ロシアによるウクライナ侵攻によって戦争が引き起こされてしまいました。多くの民間人犠牲者が出ていることが連日報道されています。戦争や紛争は、その国や地域に住む人々の家や仕事、命さえ奪います。そして多くの人々は「難民」として安全な場所を求めながら、他国や国内の安全な場所へと逃げざるをえなくなります。このように戦争は平穏に過ごす人々の権利を奪っています。戦争によって何がもたされるのかを考え、戦争がおこらない社会とはどうあるべきか、改めて私たちに問われているといえます。

本会は、世界人権宣言の精神が浸透され、人権が尊重される差別のない八尾市のまちづくりをめざし、2000 年 6 月に、「同対審答申完全実施要求国民運動八尾市実行委員会」と「世界人権宣言八尾連絡会会議」が合併し活動し始めてから、今年で 22 年目を迎えます。戦争を引き起こさない、人権が守られる社会をめざし、合併時に掲げた様々な人権の市民活動が交流し、ネットワークを築き、人権尊重のまちづくりに貢献していくために 2022 年度も以下の事業に取り組みます。



土田紀康実行委員長

（総会資料活動方針はじめにより）

1．世界人権宣言の普及と具体化

①世界人権宣言パネル展の実施
（9/17．アリオ八尾２Ｆオレンジコート）

②人権週間街頭啓発の実施
（12/5．ＪＲ八尾駅前））

2．人権教育の推進

①人権教育学校事業助成

②子どもの権利を守るワーク事業助成

3．人権尊重のまちづくり

①ひゅーまんフェスタの開催
（11/18.19．プリズムホール）

4．自主活動支援助成

5．八尾国際交流野遊祭（10/30）への助成

6．情報の発信

①ちいき・人権・World の発行（季刊）

②ホームページでの発信

7．組織

①ネットワーク会議の開催

②会員の拡大

八尾市立図書館と八尾市男女共同参画センターすみれとのコラボ企画

『すみれブックフェア』と『脳トレ クイズラリー』の開催（申込不要）

９月の「ＯＳＡＫＡ女性活躍推進月間」は、平成28年度にＯＳＡＫＡ女性活躍推進会議で定められ、大阪府内でさまざまな取り組みが行われています。

八尾市においても、性別にかかわりなくすべての人が活躍できる男女共同参画社会を実現するため、下記の事業等を実施予定です。この機会に一緒に考えてみませんか。

2022(令和４)年５月、６月に開催した『すみれブックフェア』と『脳トレ クイズラリー』が、９月以降は、八尾市内の八尾市立図書館全館に拡大して実施します。

■『すみれブックフェア』は、八尾市立図書館と「すみれ」内において、それぞれのテーマに関する図書を集め、特集コーナーを設けています。

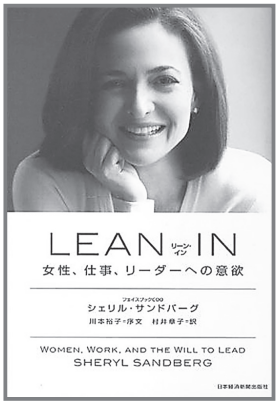
《令和４年開催月とテーマ》

５月	男女共同参画センター「すみれ」の移転記念
６月	男女共同参画週間
９月	OSAKA女性活躍推進月間
11月	女性に対する暴力をなくす運動期間
３月	国際女性デー

女性活躍に関する図書の紹介　**※近くの図書館にない場合は図書館で予約してください。**

『女子のキャリア　〈男社会〉のしくみ、教えます』
（ちくまプリマー新書）
海老原嗣生・著　筑摩書房

10代～20代前半のこれから社会にでていく女性、そして20代後半～30代の社会で働きながら自身のキャリアアップと「結婚・出産」という人生の一大イベントとの間で揺れ動く世代の女性へ送る新しい働き方指南。



『ＬＥＡＮ ＩＮ　女性、仕事、リーダーへの意欲』
シェリル・サンドバーグ・著
村井章子・訳　日本経済新聞出版社

フェイスブックでCOO（最高執行責任者）を務め、女性初の役員に就任した著者が、「キャリアアップの実現」についてノウハウを伝授。リーダーをめざす女性や平等を実現しようとする男性へ力強いメッセージを送る。

■『脳トレ クイズラリー』は、図書館と「すみれ」にあるカードを２枚集め、クイズの答えを考えてください。正解した方には、「すみれ」でプレゼントをお渡しします。
これまでの脳トレクイズは、イラスト問題やひらがな問題でした。こちらも楽しみにご参加ください。※図書館に置いてあるカードは、全館同じカードです。

問合せ：八尾市男女共同参画センター「すみれ」 電話：072-923-4940　　**詳細はこちら→**

2022 年度

じんけん楽習塾 報告

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

2022 年度のじんけん楽習塾が終わりました。今年度もコロナウイルス感染の影響で、会場での定員を 20 名に限定し、オンライン受講も選べられるように設定しました。基本は参加型学習ですが、講師の方も遠方からオンラインで参加してもらった回もあります。会場に来なくても参加できるのがオンラインの良いところだと感じてます。全 6 回の内容は下記のとおりです。

	日時	テーマ	ファシリテーター / 講師
1	5/18	いっしょに「水平社 100 年宣言」をつくろう!	森実（じんけん楽習塾）
2	6/1	障害のある子の発達と放課後の性	坂爪真吾（一般社団法人ホワイトハンズ）
3	6/15	詩のうまれくるところ～ハンセン病文学を語る～	姜信子（作家）・渡部八太夫（祭文語り）
4	6/29	「山奥ニート」やってます。	石井あらた（山奥ニート）
5	7/13	マジョリティ特権って何？	出口真紀子（上智大学）
6	7/27	今、この時代にあらためて考える ーあなたは民主主義を信じますか？	長橋淳美（一般社団法人富田林市人権協会）

参加者の感想の一部を紹介して、内容の報告に替えたいと思います。

■ 1 回目…水平社 100 年という記念の年に、たくさんの学びを吸収したいと思います。言われていた様に、今年しなければ、いつするのか、機会を多く持つこと、「100 周年」というインパクトもあり記憶に残りやすい自分自身＋子どもたちに学び返していきたいと思いました。

自分自身に戻っていくことも大変ですが、とても意味のあることだと改めて感じました。自分のことを安心して話せる空間が素敵だと思います。

■ 2 回目…すごく考えさせられました。自分がどういう立場で考えるかで違う意見がたくさん出てきて、目が開かれました。

■ 3 回目…名前とは、生きる証で人権そのもので、文学とは、自分の言葉を取り戻すこと。分かりやすい言葉で、心にささる言葉となりました。自分らしくあるために、学びつづけたいと思います。

■ 4 回目…時間があると心によゆうができると話されていた。今の私は、時間があると不安かもしれない。でも、地域でも学校でも福祉でも、もっと人的支援がととのえば、1 人 1 人の時間もよゆができ、他人への関わりにもよゆうがうまれると思う。やっぱり「人」への支援が大事だ！！

■ 5 回目…マジョリティ側が力を使って声をあげる、行動するということにハッとしました。わかっているようでわかっていなかった、と思いました。

まだちゃんと自分の特権を考えきっていないのでまずはそこを深く認知して行動につなげていこうと思います。

■ 6 回目…色んな立場の人とグループワークが出来楽しい研修でした。私も民主主義を信じたい。そしてこのすばらしい制度を発展させて次の世代につなげていく事が大切であると思いました。

白根さんと考えよう！ 世界の人権41

国際NGO「CCPR センター」「ISSYO」所属 白根大輔

ミャンマー　現場と会議室

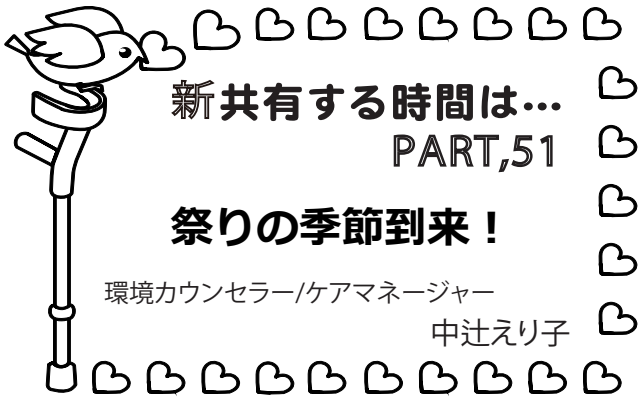
「事件は会議室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ。」

随分前の刑事ドラマのセリフですが、国連機関の議論をフォローするたび、しょっちゅう思い出します。スイス、ジュネーブで6月13日から4週間開催された国連人権理事会第50会期で、ミャンマーについての議論をモニタリングしている時もまさにこのセリフが頭に浮かびました。この会期では国連人権高等弁務官、ミャンマーの人権状況に関する特別報告者の2人から報告があり、また、ロヒンギャの状況に関するパネル討論も開催されました。そこではそれぞれの報告者から日に日に悪化するミャンマーの人権、人道状況について詳細かつ深刻な報告がなされました。

ミャンマーでは2021年のクーデター以降、少なくとも1900人以上が軍により殺害され、1400万人以上が緊急の人道支援を必要としています。また長年の迫害、国籍剥奪、さらに2017年、ラカイン州での民族浄化・虐殺の被害に遭ってきたロヒンギャの人々は、これまで100万人以上が隣国バングラデシュその他で難民生活を強いられています。このような状況の中、2018年には国連人権理事会により、独立した調査機関が設立され活動を開始、クーデター後の昨年4月にはASEANも独自の特別代表者を設置し、ミャンマー軍と事態収束のための合意も行われました。多くの国が、事態の平和的解決や緊急人道支援配布のため、ミャンマー軍に対し停戦や対話への呼びかけを行っており、具体的行動を促すため、ミャンマー軍や軍関係者に対して制裁措置をとる国もあります。しかしミャンマー軍はASEANとの合意をほぼ無視し、圧政、市民に対する残虐行為、国際人権・人道法違反を継続どころかむしろ激化しています。さらに国外からの中立的人道支援も意図的に妨害し、明らかに戦争犯罪と見られる行為・証拠も報告されています。それに対し、国内で民主化を求めるグループも武装抵抗を継続、強化し、文字通り毎日のように民間人の間に被害が広がっています。

人権理事会第50会期での議論に参加した国の多くからは、国連人権高等弁務官や特別報告者の報告に続き、ミャンマー軍の行為に対する非難、人権・人道状況に対する懸念が表明されており、ミャンマー軍や国際社会に対してさまざまな行動が呼びかけられました。同時に幾つかの国は実際の人権・人道状況には関係のない政治的な議論や主張に終始し、中にはミャンマー軍を擁護するような姿勢の国もあります。現場の状況がますます悪化し、国内での平和的な解決や対話の道がほぼ皆無に近い中、調査機関だけではミャンマーの人々は救えません。会議室で表明される懸念や非難、対話や解決の呼びかけに対してミャンマー軍は聞く耳を持っていません。緊急支援を含めた国際的な介入の必要性がこれ以上にないほど明確になっています。

軍による圧政、人権・人道侵害、残虐行為に抵抗し、平和と民主化を求めるミャンマーの人々に対し、国際社会は残念ながら未だ応えきれていません。国連安全保障理事会は拒否権を持つ常任理事国間の相違で麻痺状態のままです。国連総会ではミャンマーの正式代表部として、ミャンマー軍とNUG（クーデター前の選挙で当選した国会議員を中心に結成された亡命政府）のどちらを認めるかについての決断が延期されたままです。人権理事会ではクーデター以降、毎会期でミャンマーについての議論が行われていますが、会議室での議論は未だ決定的な行動に結びついていません。特別報告者は50会期の議論においてそのような決定的な行動の欠如は無数の人々にとっての死刑宣告に近い、と述べています。



2022 年 6 月。日中に田が耕され、水田となったタ方に近くを通ると、カエルの声が飛び交っていました。田植えを終えた水田では稲が育ち、カルガモや、ひな鳥を離れて見守るケリの姿も見られるようになりました。今年は身近な水辺で見える野鳥の数が増えているようです。

自転車通勤の旧 170 号線 (東高野街道) 添いや「やまんねき」の道で、久しぶりに見る風景に出会いました。夏祭りの幟が出ているのです。春早く、まだコロナ感染者数の減少が見られない頃に祇園祭開催決定をニュースで報道していて、「今年は八尾でも布団太鼓やだんじりの祭りが見られそうだ」と心待ちにしていました。期待が現実に近づいてきた 6 月後半にはコロナ感染拡大が報じられるようになりましたが、幟が下ろされることはなく、日を追うにしたがって、その数が増えてきました。見上げると道路を渡すように祭りの横断幕が架けられているまちもあり、いつもの祭り前の風景ですが、行き交う人はマスクを着けています。政府の広報では、密とならないよう、熱中症に注意して、人との距離と会話のない状況を確認してマスクを外すことも必要と報じています。

2020 年から途絶えていた祭り再開は、地元の人々ばかりでなく、見るのが好き・太鼓の音が好き・祭りの雰囲気が好き等々、「祭り好き」にとっても待ち望んでいる大きな楽しみでもあります (もちろん私も)。でも大きく違うことは、「注意して祭りを執り行う・気をつけて、祭りを楽しむ」こと。夏祭り最初の教興寺祭り (7 月 3 日 岩戸神社 / 天照大神高座神社) にその様子を見ることが出来ました。

途中に雨の予報もある曇り空の下、岩戸神社境内に設えた神輿の姿がありました。神事のあとも神輿は夕方まで動かすことがありません。布団太鼓は収納している教興寺会館から東高野街道の御旅所まで、はっぴを着た担ぎ手たちに担ぎ上げられての巡行です。

御旅所に到着。太鼓台を下ろすことなく、台座を回る布団太鼓の音や担ぎ手達、かけ声、見守る人々の様子は祭りの音風景そのものです。見守る人々はマスク着用、担ぎ手たちには水分補給の飲み物が配られています。岩戸神社の宮司さん達に見守られ、布団太鼓が太鼓の音で邪気を払いながら神輿が高安駅まで巡行する “教興寺祭り " は短縮されていましたが、しつかりと祭りを楽しむことが出来ました。

田中幸太朗氏の写真集「日本の原風景舸内 / シャモとレンコン畑」に載っていた教興寺祭りの会所で一服の若衆が、50 年後にも布団太鼓に乗り込み見事なばちさばきを見せていたこと。その後、はっぴの担ぎ手達の前で伊勢音頭を歌いながらお旅所まで先導していた姿。そして、今年の祭りにも「90 歳になった。」と、手押し車を押して外に出て、御旅所でお会いできたのが、“八尾の祭りを楽しむ " 一人として、うれしいことでした。

祭り開催は未定の 5 月に、「今東光資料館」(八尾図書館 3 階) から、「**今東光が描いた八尾**」として、企画展示の協力依頼がありました。今東光を虜にしたふとん太鼓と河内音頭としての展示は (R 4 年 7 月 9 日～ R 5 年 3 月 12 日)。“八尾の祭り " を楽しむわくわく実行委員会として資料提供をしています。7 月に入ってからは、祭りの地元では太鼓の練習の音が聞こえています。7 月～ 8 月 1 日の恩智祭りまで無事に祭りが続き、秋にもまた、祭り風景が広がっていることを祈りながら。

～さんのおすすめ本

子どもが高校を卒業して数年すぎて、高校時代のアオハルではなくクロハル話をしてくれました。それは、すぐに理不尽に怒る先生の暴言と行動の数々。おそらく、先生としては怒ってるんじゃなくて、教育的指導として叱っていたのでしょう。強い言葉や行動で叱咤激励することで伸びる、と信じていたのだと思います。確かに、決められた事を黙々とこなして、休み時間も粛々と学習して過ごすクラスが出来上がっていました。

そんなクラスになっていても、生徒にもっと良くなって欲しい、もっと成績を上げて欲しい等々の願いが、ますますあれこれ叱ってしまうことにつながっていたようです。先生は、いつのまにか＜叱る依存＞の落とし穴にはまっていたのかもしれません。

同じ事が今の学校現場でも家庭でも、社会でも起きています。叱るって、効力があるから。叱る側が満たされるから。なかなかやめれない、抜け出しにくいんですよね。

さて、今回の本は、『**〈叱る依存〉がとまらない**』です。

叱ることがとめられなくなることを〈叱る依存〉と呼んで、その理由を解き明かしています。

そして、「叱る」ことを「叱る」のではなく、「叱る」を手放すための取り組みも書かれています。私も含め、少しずつでも「叱る」から自由になれる人が増えていきますように。

あわせて、『**教室マルトリートメント**』も気になる方は読んでみて。

『〈叱る依存〉がとまらない』
村中直人　著
紀伊国屋書店

『教室マルトリートメント』
川上康則　著
東洋館出版社

世界人権宣言パネル展のお知らせ

今年もアリオ八尾２階オレンジコートにて開催します。

世界人権宣言は、世界のトップアーティストが宣言の各条文の意味をイラストで表現し、絵本ライターの中川ひろたかさんが編集した『ひとはみな、自由』から許可を得て掲示します。また、実際に八尾でおきた差別落書のパネルも展示します。世界人権宣言の精神を学び、差別落書きをはじめ差別のない八尾市をめざして、多くの人たちに参加いただきたいと思っています。

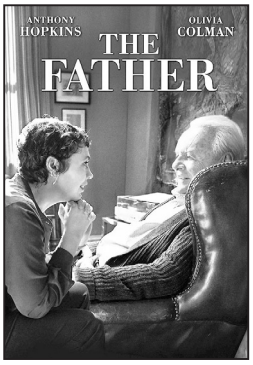
昨年に続き、「言われてうれしいひとこと」ぬりえコーナーも設置予定です。ぜひご参加下さい。

開催日	2022 年 9 月 17 日（土） 10:00 ～ 17：00
場　所	アリオ八尾２階オレンジコート
共　催	八尾市・八尾市教育委員会 ・世界人権宣言八尾市実行委員会
協　力	八尾市人権啓発推進協議会

※新型コロナの感染状況によっては、一部内容を変更するかもしれません。ご了承下さい。

※じゃりちえ日記、今回はお休みしました。

気ままにおしゃべり シネマ vol.50



ファーザー
（2021年　アメリカ／フランス）
監督／フロリアン・ゼレール
主演／アンソニー・ホプキンス

E：日本が高齢化社会と言われて随分経つし、認知症への理解も進んできたとは思うけど、介護する側のノウハウだけではないところ、本人目線で描かれた展開がすごかった。

Y：介護する立場と自分もこうなっていくかも、とでは見方が違ってくるかもね。

E：両方かな。実際に「わからん。何もわからん」と言い出した父がいて、そうなるのは年相応でしょ、と思っていたから。アンソニーの世界がサスペンスのようで怖くなった。

Y：そうそう、主演がアンソニー・ホプキンスだけに怖いことが起こるんじゃないかと勘繰ってしまう。ん？どれが現実？ってなんども混乱した。

E：娘のアンは結婚してたっけ？いやいやパートナーとパリに住むからアンソニーには介護人を頼むんだよね？とか、状況がごちゃ混ぜになって自分も危なかった。

Y：本人にとっては本当に怖い世界だと思う。知らない男が娘の夫だと言って家の中にいたり、それも自分の家だと思っていたのに邪魔者扱いされたり。

E：ドアを開くたびに違う世界。周りが正しくて自分が責められた気持ちになる。理解しようとしてもまとまらない。こっちまでアンソニーの世界に引き摺り込まれて、こんなに不安なんだ、こんなに怖いんだと。最後に泣きじゃくる姿、すごく悲しかった。

Y：娘のアンの立場で考えると、こどもは親の人生にどこまでつきあわないといけないのか、仕事やパートナーとの関係は、自分の人生はどうなってしまうのか。おまけにいつも上から物を言う父への反発。でもずっとそばにいられないことへの罪悪感も。

E：妹のことは褒めまくってアンには不足を言うアンソニー。こんな自分勝手で言いたい放題の父親、放っておいてもいいはずなのにね。妹は事故で亡くなったことを忘れている父を可哀想に思ってる…。辛すぎる。

Y：介護する家族に「後悔のないようにね」とはよく言われることだけど、もちろん本人もそうしたいと思うけれど、仕事か介護か、自分の人生は、と悩む人も多いと思う。そんな思いをさせたくないと思ってる人もね。

E：誰もが幸せになれる選択には経済的なこと、それこそ社会制度が必要なわけで。アンソニーは介護人を頼んだり個室の施設で過ごすようになるけど、経済力のある特別な人のように思えた。介護離職せざるを得なくなって、生活は親の年金頼みの人もいると聞く。

Y：親も自分の家で自分らしく過ごしたいとは思うけど、こどもに頼りたいとは思っていないと思う。そこをサポートするのは家族、専門職、地域の人とか、選べる社会であってほしいな。

E：困った時に「助けて」が言い合えたり、最後まで自分の人生を楽しめる、それが当たり前になること、選挙に行ってみんなで考えないと。老後が近くなってほんと切実です。

勝手にきゃぷてる

72

＜精神障碍の社会的啓発は必要か？＞

池谷　麻幸

私が 20 代の頃、1990 年代、世の中では障碍者の人権を護れということが盛んに言われていた。新しい生き方や新しい社会のあり方まで夢に見た。

しかし今、世の中も時代も夢よりコロナパンデミックなど、国を挙げて闘う厳しい時代となった。戦争の前の保守的、全体主義的な世の中になった。

今精神障碍者の人権はどうなっているのだろうか？

最近ある精神科医は、精神病患者の診察時に医者にも銃を持たせて欲しい、と公言した。

私は、この医師の気持ちは理解する。実際の臨床で余程怖い目に遭ったのかもしれない。

精神障碍の社会的危険性は認めなければならない。

最近もある精神科医が、「社会防衛も私達の仕事の一つだ」と言っている。この事は正しい。

然し、それでもなおかつ我々精神障碍者の人権侵害という社会的問題がある。

この問題は人類の発生以来変わらない。

そんな一つの時代では解決しない永遠のテーマである。

つまり、精神障碍の社会的危険性と、障碍者一人一人の人権の両立を考えなければならない。

これが大原則である。これは、言うは易いが行うは非常に難しい。

私の言っていることは考えすぎだと言う人もいるが、そうではない。

人権侵害は人間社会にいつでもどこでも起こる。

ウクライナに軍事侵攻したロシアを見よ。

人権侵害は、そんなことはないと思っているうちに、いとも簡単に容易く起こる。

今回のロシアのウクライナ侵攻の事実により、人権は、まさかそんなことはないだろうと思っているうちに容易く侵害されることが明らかになった。

これは対岸の火事ではない。我々の日常の中から、人権侵害は始まる。

ロシアがウクライナに侵攻したことに強く抗議する。民主主義の危険であり、いつでも我々の身に起こることだと胸に刻みます。

ロシアの国際法違反を許すことは、中国や北朝鮮の国際法違反を許すことになる。

日本人はまだまだ危機感が足りない人が多い、と私は思う。

ウクライナでの戦争は、我々にとっても、他人事では全く無い。

アメリカも最近でも、イラク戦争などで罪悪を行なった。大量破壊兵器開発疑惑のねつ造など。ロシアだけではない。

どうしたら世界から戦争が無くなるのか、これらの歴史などから、冷静に皆で学び、考えなければならない。

♪歌詞紹介♪

八月の歌

作詞：浜田省吾　作曲：浜田省吾

砂浜で戯れてる
焼けた肌の女の子達
おれは修理車を工場へ運んで渋滞の中
TV じゃ　この国　豊かだと悩んでる
だけど　おれの暮しは何も変らない
今日も　Hard rain is fallin'.
心に　Hard rain is fallin'.
意味もなく年老いてゆく
報われず　裏切られ
何ひとつ誇りを持てないまま

八月になるたびに
“広島 - ヒロシマ” の名のもとに
平和を唱えるこの国
アジアに何を償ってきた
おれ達が組み立てた車が
アジアのどこかの街角で
焼かれるニュースを見た
今日も　Hard rain is fallin'.
心に　Hard rain is fallin'.
子供等の肩をうつ
飢えてゆく　すさんでゆく
明日への希望など持てないまま

満たされぬ想い
この　からまわりの怒り
八月の朝は　ひどく悲しすぎる
No winner. No loser.
ゴール無き闘いに
疲れて　あきらめて
やがて痛みも麻痺して
Mad love. Desire.
狂気が発火する
暑さのせいさ　暑さのせいさ

今日も　Hard rain is fallin'.
心に　Hard rain is fallin'.
意味もなく年老いてゆく
報われず　裏切られ
何ひとつ誇りを持てないまま

チャレンジ♪ まちがいさがし 22

世人やお的世界人権宣言第 15 条。「**みんな国籍を持つことができます**」左の絵が正解。右の絵は、まちがいが 5 つあります。探して事務局まで送ってくださいネ。正解者には、世界人権宣言八尾市実行委員会オリジナル缶バッチプレゼント！

みんなだれでも、どこかの国民になって国に守ってもらえるのです。国籍を奪われたり、国籍を変えるのをじゃまされたりしません。

■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加してくださる、また支援してくださる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

○団体会員：年額１口　　５０００円
○個人会員：年額　　２０００円

〒581-0004　八尾市東本町 3-9-19-312　八尾市人権協会
世界人権宣言八尾市実行委員会　　TEL072-924-9853
E- メール　　oyaoya@oyaoya. org